

AO・HANI

Social Welfare Organization Since 1991 Nara City Japan

2010 JULY 61号

あおはにのしごと
22年度が始まって…

生活支援部より
楽しかったGW おあはにフレンドパーク
銀河ステーションで楽しいイベント

連載コラム:支援スタッフの声

地域便り Yくんの1日

自然学校通信

理事長メッセージ: 帰らざる河

お知らせ



22年度が始まっています...

セントラルキッチン

セントラルキッチン班の扉を開けると、いつもスパイシーないい香りが漂ってきます。中に入ると、一般の食品工場のようにです。

昨年からレトルトカレーを始め、また一層忙しくなった現場は、指示や確認が飛びかい、皆が出している空気は働く意思に満ち溢れています。

Mさんは、そんなセントラルキッチンに今年4月から通い始めました。最初は学生気分が抜けないでいましたが、仕事に対する基本的な姿勢はすぐ身につけられました。

昨年は3名の卒業生を迎えましたが、その3名はいまだ挨拶や受け答えなどが、見違えるように上手にできるようになりました。来年はMさんも、先輩たちと同じように、見違える成長を見せてくれるのではないのでしょうか。今後もセントラルでは、就労に向け、支援を行っていきます。



人気上々レトルトカレー

レトルトカレーは、その美味しさが評判をよび、外部団体からの製造委託の依頼が止まりません。お客様の製品名で発売されるレトルトカレーの中身を「あおはに」が作るというものです。今後は、「世界にひとつだけカレー」だけでなく様々な場所で、あおはにのレトルトカレーがお目見えすることと思います。



三郷町から依頼された
いのししカレー

ハーブクラブ

4月から各テーブルに置いてあるメニューが新しくなり、好評を頂いています。奈良市内や大阪からのお客様のリヒートが多く、バイクの方もたくさん来られます。

また、ハーブクラブ周辺のガーデニングを整備しており、お店の名前のとおり、たくさんハーブの苗を植えています。お客様からは、ハーブ苗を譲ってほしいとの声をかけていただくなど、喜んでいただいています。土日の忙しいときにサービスが低下しないよう、頑張っていきます。

Kさんについて

今春養護学校を卒業してハーブクラブに通所が始まったKさんは、公共交通機



NEWS!

あおはにの夏ギフト がラインナップ!

7月よりチラシを配布
しています。詳しくは
HPをご覧ください
www.aohani.com



間を使ってひとりで通所できませんが、また外部での見守りが欠かせない状況の方です。

卒業から通所施設への移行に当たっては、卒業学校はもとより、市行政、地域の相談支援センター、余暇支援提供の地域支援事業所、地元の民政委員さんなどが一同に会してケース会議をもって頂き、ご家庭支援を含めて文字通り地域ぐるみで支える体制の下、現在順調にレストランの調理補助係りとして活躍され、笑顔も増えるようになりました。

例年、大変な忙しさを迎えるゴールデンウィークも自分の役割を自覚され、調理担当のバートさんや先輩利用者さんとも協調して仕事に取り組むことができた頼もしい新人さんです。

木工

木工所に行くとき、大きな声で「休憩に行ってください」と元氣よくスタッフに言う利用者がいます。休憩に行くときは、支援スタッフから「休憩カード」を受け取り、代わりに「タイム」を受け取ります。

新人の通所の方の中には、学生気分がぬけないためか、すぐに休憩してしまう人が多いため、朝礼の時に、各自にあらかじめ3枚の休憩カードを「これが1日分です」と渡し、おき、休憩時には、そのカードとタイムを交換するというルールがあるのです。タイムが鳴ったら、休憩は終わりです。



休憩カード

このルールを作ったばかりの頃は、タイムを面白がって今まで以上に何度も休憩したがる人が出まし



休憩カードを使うのが楽しそう



工房で使う道具 組み立て作業を示し指導します

たが、カードの数を3枚にしてからは、ゲーム感覚からなのか、限られたカードを工夫して使えるようになっていきました。

こうして、昼からはほとんど作業ができなかったSさんも、作業と休憩の区別がつかようになりまし。これからも利用者の発達と成長という観点から、工夫を繰り返して、楽しく作業していきたいと思ひます。

製菓

だれにでも明るく「ハロー！ グッドモーニング！」と声をかけるのが、この4月から製菓班にきたNさんです。

最初は遠慮気味だった彼も、すっかり製菓班に溶け込みました。仕事は、視覚の優



位性からか、見えていない単一の課題を提供している、なくなることに意識が行き過ぎ、あわてて失敗することがよくありまし。視点を養って、パウンドケーキづくりに取り組んでもらい、型紙取りの工程を示して作業を任せると、集中力も上がり良い製品が作れるようになりまし。これからは色々な製品づくりにチャレンジしてもらおうと考えています。

3時のおやつは製菓班から



3時のおやつは製菓班から。おやつは、おやつ作りです。おやつ作りは、おやつ作りです。おやつ作りは、おやつ作りです。

製パン

製パンの工房では、朝早くから5名の利用者が仕事に取り組んでいます。

パンマイスターの専門職員より、職人気質にもとづいた厳しい指導のもと、素晴らしい成長を見せてきています。今では、指示されなくても、それぞれが次の仕事



の準備を行っています。

長らく製パン作業に携わっているY君は、なんでもできるがゆえに、あわててすることが多かったのですが、「職人は正確に丁寧にしないと美味しいパンはできない」と指導をうけ、表情が変わってきています。そして周りの人にも指導できるようになっていきます。

5月の平城遷都1300年祭では、持っていった米粉パンが一瞬で売り切れました。滋賀県からわざわざこのパンを買いに会場に来られた方があつたりしました。

「青葉仁会の米粉パンは本当においしい」との評判は、利用者の耳にも届き、大変前みになっています。

クラフト

Tさんは、あおはにに來られて日が浅い頃には、昼休みに茶畑に向かつて走り出し、そのあとをスタッフが追いかけていくということがよく見られました。

山や川が好きで、体力もあるので、スタッフを追いつけないことも度々。「山でTさんを見失いました」とスタッフが慌てて報告すると、事務所では「ここにおられるよ」と返事をすると、といった笑い話もあります。

いまでは落ち着いて、(時々山には行かれますが)紙漉きの板に張り付いた紙を剥す仕事を、器用に黙々とこなせるようになりました。



紙すきは、原料の雁皮(がんび)のゴミ取りから、漉き作業まで作業難易度の幅が広いものです。時間をかけて、その方にあったマニュアルを作り、トライ&エラーを繰り返して、作業をより高度なものに変えていきながらスキルアップできるように支援しています。

楽しかったGW

ゴールデンウィーク

「あおはにフレンドパーク」報告
5月1日から5日まで

5月1日から5日までのGW期間に「あおはにフレンドパーク」と題して、特別余暇を行いました。毎年恒例になりました「野外バーベキュー」のほか、「田原グラウンドで大運動会」「青蓮寺湖でカヌーイベント」「野外コンサート」に「アウトドアフルーツを食べよう」等、毎日オリジナルのイベントを開催しました。

「田原グラウンドで大運動会」

あおはにの家とあおはにのチーム対抗戦で玉入れやおやつ食い競争などを行いました。結果は引き分けでしたが、皆さん自分のチームが勝つと歓声があがり互いに真剣に競っていました。



「青蓮寺湖でカヌーイベント」



カヌー初体験の方もおられ緊張でドキドキしながらも、終わる頃には晴れやかな笑顔、とても貴重な体験になった様子でした。

「野外コンサート」

身近なスタッフのギターやクラリネットの演奏や歌があったり外部からも、鳥のうたやギターの演奏によるクラシックギター演奏があり、知っている曲があると一緒に口ずさんだりされ、ゆったりとした時間を過ごされました。



「バーベキュー」

沢山の方が参加され、普段の食事とは違った環境のためか、いつも以上に皆さん会話に華が咲いていました。「アウトドアフルーツ」とはバナナやパイナップルを串にさしてバーベキューで焼いて食べるという、おそろしく初の試みでありましたが、思いのほか好評でアツアツのフルーツを野外広場でおいしそうにほおばられていた姿が印象的でした。



この5日間は幸い天候にも恵まれ、毎日快晴でした。GWが終わったときにはみなさんすっかり日焼けをされ、「楽しかったでー」「またやりたいなあー」と嬉しい声を沢山いただきました。今後も連休には楽しいイベントを行っていきたく思いますので、みなさま是非ご期待ください！

銀河ステーションで 楽しいイベント

日本でライブツアー中の

「サンセットドライブ」の

ライブを楽しみました

5月21日、あおはにの銀河ステーションで、アメリカのブルースバンド「サンセットドライブ」のライブが行われました。青葉仁会の地域交流ホームに泊まられることになり、利用者に演奏をプレゼントして下さったものです。人の方でも通所の方も、世界のトップクラスのブルースの演奏の楽しさを体中で受けとめて大感激でした。



ジヨブ班の新しい取り組み

今年4月より本格的にさをり織りの作業を取り入れ製品作りをしています。他の作業班より軽作業をもらい、仕事に繋げることで就労部門に移動できるよう支援していきたいらと考えて取り組んでいます。

アート部門では、陶芸の窯が復活したことで陶芸作品作りや製品作りも本格的に始動しました。

畑部門では、今年の春には畑にジャガイモを植え、順調に育ちもうそろそろ収穫をする予定です。6月の上旬にはサツマイモを植えたので、また楽しみがひとつ増えました。



職員も成長を

第2回職員研修

「個別支援計画を再考し、あおはにスタンダードを目指して」



本年度は、新任職員研修を年5回、職員スキルアップ研修も年5回、一般教養研修を年7回、施設外研修を年7〜8回行う予定です。

今回の研修会では、改めて個別支

援計画の重要性を講義形式で、事前のアンケート調査より課題を抽出しグループワークも行いました。研修会に先立ち、個別支援計画ソフトの増設を行うとともに、支援計画ソフトの操作マニュアルも改修、事前に解決できる問題については整理して研修に臨んでいます。

ケアにあたる全職員が参加するために3日間開催しています。限られた時間を有効に使うためにいろいろ工夫を取り組んでいます。研修後のアンケートも概ね好評です。一度の研修では取り込めないほどの課題があり、今後もしばしば行うことで少しでも理想の個別支援計画(理想の支援)に近づいていければと考えています。

連載コラム 支援スタッフの声

木に関わる仕事を 通じて障害者の 役にたちたい

木寺 乃 平成14年11月採用



のスタートだったので、何ごとにも驚愕する日々でした。「なんて重いものを背負って生きておられるのだろう」と思いました。支援におわれ、なかなか木に携わるプログラムを構築することは進みませんでした。この時期に、支援についての経験を積めたいと思います。ある利用者はいつも部屋にばかりいる方でしたが、なにかと声をかけて連れ出し、散歩も一緒にしていると、体重を120キロから90キロまでおとすことができました。

作業に來れない方を來れるよう工夫したりしました。何年か経った頃、週に1、2回しか出勤できないSさんに、なにか達成感を感じてもらいたかったので、できるだけ機械を使ってもらおうようにし、一部の工程ではなく全部の工程を一人でやってもらうことを考えました。それが時計作りでした。最初は失敗のやまでしたが、次第に機械の微妙な調整もできるようになり、完成品が増えるころには、Sさんの出勤は皆勤でした。木工を通じて障害者の役に立つことを感じられた瞬間でした。

青葉仁会の木工で作られたものが、障害の垣根をはずした、素晴らしいものになっていくこと、そんな製品を作った利用者に誇りや喜びを感じてもらおうこと、いまはそれが自分の夢です。

大学を卒業して世界旅行をするため、アルバイトを始めましたが、軒余曲折の末アラスカに1カ月間のホームステイをしたことがきっかけとなり、是非とも木に携わる仕事をしたいと思いました。ハローワークで青葉仁会の木工指導員の募集があり、応募しました。その時、理事長のネクタイの柄がトーテンポールだったことが印象的でした。私が入ったころの木工班は、パートの方が1名だけで、重度の利用者の方が多いという状況でした。福祉経験のないところから

地域支援事業(行動援護・移動支援)の紹介

地域便り

Yくんの1日

地域支援部では現在60名ほどの方と契約させていただいており、そのうちの半数以上を占めるのが小学生以下の児童！今回はそんな元気いっぱいの子どもの実際の支援の様子をご紹介します。

お母様のコメント
 「今日あおはにさん来てくれるよさという私の声に大喜びのサインで一所懸命伝えてくれる息子。初めて支援を利用した2年前には想像もできなかったやりとりです。初めはとても不安で時には泣くこともあった息子でしたが、少しずつ確実に信頼関係を築いて下さったおかげで、今やヘルパーさんが来てくれる時間を心待ちにし、帰宅するのを待つほどになりました。以前はどんなに大変でも家族で育てるのが当然と考えていましたが、現在は、行動援護で放課後や休日にも息子の行きたい所に連れて行って頂いています。この2年間で作ったたくさんの思い出の時間を作ってくれた息子、自身の世界が広がったと思えます。そして親の心と体に余裕ができたことを実感しています。」

Yくんの支援中のお出かけ先



登録ヘルパー大募集！
 働きかたはいろいろ。経験のない方もお問い合わせください。
 青葉仁会 tel 0742-81-0420(担当東まで)

自然学校通信



自然学校では、作業の一つとして「薪作り」を行っています。材料となる木材を、自然学校が管理している山から間伐材として切りだします。斜面に輪切りにされた木材が転がっているのを職員、利用者が並んで道まで手送り運び出すのです。

団体での作業で、ひとりが欠けても作業は進みません。普段作業をそんなにされない利用者も、次から次へとくる木材を受け取っては、次のひとりに渡していきます。この作業は自然学校職員の団結を本場に高めたと思います。

作業が終わって、生活棟に戻った利用者の表情は、体力的な疲れとはうらはらに、充実感に満ちている様子です。

切りだした木材は薪にして、ハーブクラブに納品します。ハーブクラブで販売されるこの達成感をもっともつと共有していきたいと思えます。

また農産も、去年は黒米だけでしたが、赤米、緑米などの古代米や野菜も栽培し、地域との交流も深めていきたいと思っています。

帰らざる河

「帰らざる河」それは古い映画の題名だ。もっとも映画は芸術だから古いも新しいもないのかも知れない。マリリン・モンローの歌う「ノーリターン」を繰り返すメロディにのせて、場面は展開していく。

その歌は彼女特有の甘い声で、ノーリターンをささやくように告げる。今でも何かの折りにその歌声にふれると、なんとなく甘く、そして切ない気がする。それは、河を下っていった者は誰も帰ってこないという内容のものだが、その先の意味はよく覚えてはいない。ノーリターン、私にとってはそれだけでじゆうふんに暗示的で、そこから先のこととは、どうでもよいのかも知れない。

後年になってその河はコロラド河だと知った。それはアリゾナ砂漠を縫ってグランドキャニオンの谷底を流れ、ニューメキシコにつながる河だ。偶然にも数年前だが、モンベルのCEOである辰野さんに誘われて、この河を下る機会を得た。グランドキャニオンの直下には、自然保護のため様々な制限が

あつて誰も簡単には立ち入り、自由に振舞えるわけではない。参加したその企画は、そこでカヌーを楽しむというものであったが、その狭い谷底には毎秒7トンの水が流れていた。その特異な地形と、そして水の力によつてつくりだされる激流は、まさに圧倒的という他はなく、いったん漕ぎ出してしまえば、再び戻れるような流れではなかった。

まさにノーリターンの言葉そのものと言えり河だった。その帰らざる河を、一般的には2週間くらいかけてキャンプをしながら、ガイドの操る特異な形のボートに乗って下ることになる。しかし、そんな悠長な日数に余裕のない私たちの河旅は先を急いだ。下りはじめて何日目だったろうか、いくつめかの先行パーティに追いつきそしてキャンプ地を同じくすることになった。

その翌朝のことだ、出発準備に追われる一人のガイドの姿に、私の目は釘付けになってしまった。なんと彼は断性麻痺なのだ。独特の斜頸をとまなう首は、



障害による緊張症状を示していた。彼が、この川の冷たい水に落ちればどのような状態に陥るか、我々は、それまでにとりくんでいた、身体障害者のパラマウント チャレンジカヌーを通して経験していた。だからこそその驚きはなおさらだった。

アメリカという国は、身体に障害があつても本人がチャレンジすれば、もっとも危険な河のアドベンチャーガイドにもなれる。

そして何よりも、そのボートに命をあずける客が存在する。日本では考えられないことだ。その国民性にたいしても、ともに大きな衝撃的な事実を感じる他はなかった。

昨今、日本の障害者福祉は社会保障の立場を捨て「働いてふつうに地域で暮らす」それがあたり前の権利であり普通の社会だと言う。障害者を福祉の対象ではなく「権利の主体」、あるいは「新しい公共」というかたちで、市場原理をもとに法審議され、その制定を与党の新施策として急いでいる。たしかにその論理は正しい。しかし「ふつうに企業が

障害者を雇用し、ふつうに障害者が暮らす住居がそれほどあるだろうか」「ホームレスや失業、自殺が普通になりつつある社会に、自分を普通と自覚する人でもそれはたいへんなことだ。障害者が福祉という社会保障を基盤に、権利の主体となれば話は別だ。教育でも障害者が普通に席を並べて、授業を受けることさえまだ普通とはなっていない。

そうするには受け入れ可能な教育制度の抜本的改正が必要だ。まして障害者にアドベンチャーガイドの資格を与えるだろうか。またそれを普通とする社会があるだろうか。日本の現実を軽視した理念ありきの制度となれば、それは激流に彼らを放り出すようなものだ。そのような改革の河を下っていけば、再び戻って来れるのだろうか。車椅子があれば自力で生きていける障害なら、権利の主体だけでも河を下っていきけるかもしれない。しかし知的補助具という車椅子に代わるものがない、知的障害者はどうするのだろうか。「ノーリターン」その歌声は甘く切ない。

青葉仁会理事長 榎原典俊

あおはに夏祭り



2010年**8月6日(金) 18時～20時**

あおはに夏祭りが今年も開催されます。みんな浴衣を着て、夏の1日を模擬店やゲームそして盆踊りを踊ったりして楽しめます。盆踊りは地元田原伝統芸能の方による生演奏、利用者は南中ソーランを披露します。



ぜひこの日の青葉仁会にお越しください。

青葉仁会をご支援くださった方々

【会員】

- 1 □ 杉本 愛明 井手 泉
- 井手 礼子 井手 健明
- 竹村 喜美 小林 誠之
- 小山 喜久雄 中森 正喜
- 穴戸 正人 長谷川 和子
- 信高 哲天 徳田 昭太郎
- 徳田 利雄 上西 健一
- 徳田 龍太郎 東郷 道彦
- 山根 久子 清水 浩
- 三浦 成男 遠藤 保彦
- 尾崎 真緒 野中 智文
- 光野 昇 山出 哲史
- 岩村 修持朗 浅見 登巳子
- 2 □ 北川 嘉文 小山 喜久雄
- 乾 茂 巽 弘文
- 木田 恵 田中 浩
- 湯浅 珠樹
- 3 □ 櫻根 望 木村 重紀
- 山口 光明 尾崎 京子
- 4 □ 櫻打 遊二
- 8 □ 尾崎 綾

【寄附】

- 1 万円以上 清岡 正教
- 三島 泰明
- 阿南 雅明
- 4 万円以上
- 狭川 六玄
- 10 万円以上
- 光尊 寺
- 30 万円以上
- AHCG (あおはにセンタービル)

※いし支援ありがとうございました。
心から御礼申し上げます。